

授業概要

アヘン戦争以降の中国は、西洋や日本との関わりの中で変化を始めます。まずは、変化を始める前の伝統的な中国の思想と社会、それに基づき構築されていた東アジアの国際秩序はどのようなものであるか確認します。その後、中国が西洋の国際秩序に飲み込まれ、伝統が崩壊していく過程を、清朝皇帝が外国公使を接見する際の儀礼の変遷から振り返ります。また中国は、自らも日本や西洋の技術や制度を取り入れようとし、近代化への道を歩み始めます。そのただなかには悪女として名高い西太后でした。西太后は改革の推進を阻み、中国の近代化を遅らせた人物として知られています。その認識は正しいのか、西太后は実際にはどのような人物であったのかを中心に、中国の近代化の試みを概観できるよう講義します。

授業計画

第 1 回	ガイダンス
第 2 回	中国の伝統思想①：「天下」の「天子」
第 3 回	中国の伝統思想②：正統の論理
第 4 回	中国の伝統思想③：「中国」と「夷狄蛮戎」
第 5 回	中国の伝統思想④：伝統思想と国際関係
第 6 回	清末中国の外国人接見儀礼①：朝貢から「外交」へ（公使接見の実施）
第 7 回	清末中国の外国人接見儀礼②：接見の儀礼と風景（北京と紫禁城の構造）
第 8 回	清末中国の外国人接見儀礼③：儀礼変更（失墜する権威）
第 9 回	清末中国の政治構造①：政治制度と政策決定過程
第 10 回	清末中国の政治構造②：政策決定過程とその記録
第 11 回	清末中国の政治構造③：西太后の治世
第 12 回	清末政治史の再構成①：「通説」の形成過程
第 13 回	清末政治史の再構成②：史料の新発見により書き換えられる歴史
第 14 回	清末政治史の再構成③：史料の新解釈により書き換えられる歴史
第 15 回	清末政治史の再構成④：「悪女たちの真実：西太后」（NHK 制作）の誤りと創作
第 16 回	筆記試験

到達目標

- ・歴史上の出来事について「何が起きた」という知識を得るのみならず、「なぜ」そうなったのか、その理由を考えることができる。
- ・教科書をはじめとした既存の歴史記述を絶対視することなく、常に批判的に、疑問を持ちながら読み、考える力を身に付けることができる。

履修上の注意

受講条件は特にありませんが、今年度の「東洋思想史」を併せて履修していることが望ましいです（昨年度までの「東洋思想史」との関連はありません）。中国史に限らず歴史一般、歴史に限らず現代中国に興味・関心のある学生の受講も歓迎します。また、高校までの歴史教科の基礎知識も求めません。歴史上の出来事や人物、歴史用語や年代を暗記する必要はありませんし、それらをおぼえることも重視しません。

また、受講生のみなさんと相談して講義内容を変更する場合があります。履修にあたっては「東洋史概説」のシラバスも合わせて閲覧しておいてください。

予習・復習

読書・インターネットの閲覧・テレビ番組の視聴などを通じ、講義内容から生じた興味関心を深める（授業 1 回あたり合計 4 時間程度）、或いはそれに相当する時間を試験勉強やレポート作成にあてることで、単位取得の目安となります。

評価方法

平常点 60 点、期末課題（試験）40 点で評価します。平常点は、毎回提出してもらったリアクションペーパーの内容により評価します。

テキスト

講義で配布するプリントをテキストとします。参考文献は講義の中で紹介します。